

国際委員会国際対応戦略立案分科会

(第25期・第2回)議事要旨

1. 日 時：令和3年3月9日（火）10:00～12:00
2. 場 所：オンライン
3. 出席者：高村委員長、武田副委員長、鈴木幹事、中村幹事、古谷委員、浅見委員、沖委員、川島委員、古城委員、
(事務局)：市川国際業務担当参事官、越田参事官補佐、高野参事官補佐、
武宮専門職、貞安専門職、小内専門職付

4. 議 事

(1) 第1回議事要旨の確認

異議なく了承された。

(2) 行政改革推進会議からの通告へのフォローアップについて

令和2年12月9日に公表された行政改革推進会議からの通告を受け、そのフォローアップに関する審議を行った。

まず、①行政事業レビューシートについて、事務局から指摘事項の説明があり、委員による意見交換を行った。結果、次回の行政事業レビューシートにおいては、日本学術会議の国際活動の成果・効果がより理解しやすいものになるように、事業の概要やエピソードベースの具体例を記載した別紙を添付する方針で一致した。

次に、②国際学術団体の活動調査票について、事務局から説明があり、委員による意見交換を行った。本活動調査票について、各団体の活動実態をより良く把握するため、具体的な実例を書いてもらう仕組みがあると良いという意見や、各団体の概要紙・基礎資料があると良い、などの意見があった。委員の意見を取りまとめ、次回以降の分科会で、新たな活動調査票案を提示することが了承された。

続いて、③今後の広報対応について、事務局から説明があり、委員による意見交換を行った。若い方々に届くような広報方法があると良い、という意見や、各国際学術団体の最新情報を関係者で共有できる仕組みがあると良い、などの意見があった。今後の広報の在り方について、委員の意見を取りまとめ、次回以降の分科会にて、継続審議を行うことので了承された。

最後に、④外部評価の導入について、事務局から説明があり、委員による意見交換を行った。今期の加入国際学術団体の審査において、更なる透明性の向上

の観点から、外部有識者にも関わっていただく方針で一致した。

(3) 日本学術会議のよりよい役割発揮に向けた検討について（中間報告）

事務局から説明があり、委員による意見交換を行った。広報の在り方や、期ごとの引継ぎの課題など、日本学術会議の活動全般に関する様々な意見があった。

(4) その他

委員より、国際賞のスキームについて、日本人研究者の受賞者を増やすためにも、国際賞の推薦等に関わる手続きについて、より制度化できないのか、という意見があり、事務局より担当課にも問題意識を共有することとなった。

以上